

# 平成 30 年度第 2 回赤磐市行財政改革審議会議事概要

日時：平成 30 年 12 月 21 日（金）午後 1 時 30 分開会 午後 3 時 57 分閉会

場所：赤磐市役所 2 階 大会議室

傍聴人：0 人

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 市長挨拶
- 4 協議内容

会 長：今年度から、議事録を概要にするよう事務局に伝え、作成した。

委 員：了承。

## （1）市の財政状況について（報告）

事務局：資料 1・2・3 により、市の財政状況について、行革に取り組み、歳出の抑制に努めているものの、地方交付税の縮減が大きく影響しており、財政調整基金残高は約 75 億円で前年度より 4 千万円ほど増えたが、経常収支比率は 92.2%で前年度より 0.8 ポイント上がっている。また、前回出された委員からの質問に答えるため、経常収支比率と財政調整基金の関係、アクションプランでどのような取組が大きな貢献をしたかを説明。

委 員：・人件費を下げたことにより、市民サービスが低下したとの苦情等があったか。  
・施設を指定管理にしたことで、以前と変わったことや利用者の声の状況はどうか。

会 長：大きな不満や苦情等はないとのことで、効果は出ているようですので、引き続き、なお一層の努力をしていただきたい。

## （2）第 3 次行財政改革大綱に基づく「民間活力」の導入推進について

事務局：資料 4・5・6 により、全業務に対して行った「民間活力」の導入推進に係る調査結果について報告。  
取組を推進するにあたり、今後大切にしなければならない基本的な考え方や観点について、資料 7・8 により協議していただき、次回、提言としてまとめていただきたい。

委 員：・先ほど、民間活力を導入して、コストを下げ、市民サービスの低下もなかったとのことだが、市と民間がすることで何が違ったのかを分析し、改善点や問題点を見つける必要がある。  
・単に民間に頼んで、低賃金でやってくれるところがあったからコストが下がったという終わりではなく、例えば、人数を減らしたのか、人数を減らせたのならどのような管理をしたのかなど、どんな工夫をしたからコストを下げることができたのかについて、行政が行政の中の組織運営や人の動かし方などの教訓として学んでいく必要がある。民間活力を導入していない他の業務の問題点の改善にも活用できる。  
・ただ民間活力を導入したということに留まらず、管理の方法や作業の方法等、民間活力ではど

- こがどう違ったのか、どういう工夫をしているのか、サービスは向上したのか、今後はどう考えていくのかなどを教訓として学び、市の業務に反映させないと本当の行革にはならない。
- ・民間活力導入後も、分析・調査・問題点課題点の研究をしっかりとしていくこと。
  - ・金額は単価×数量ででる。金額が下がったということはどちらかが下がったということ。
  - ・資料8の素案は、羅列的に書かれていて見にくい。タイトルをつけるなどメリハリを付けると見やすくなる。
  - ・資料8の素案は全体的には良いが、民間活力は、委託や指定管理だけでなく、幅広く捉えて、有償ボランティアも活用していいし、もっと柔軟に考えて、民間活力を深めてほしい。
  - ・資料8に「単なるコストカットを目的とせず」とあるが、行財政改革には財政改革と行政改革があり、現実論から言うと、大抵は財源が足りないので収入を増やすか歳出を減らすかという財政改革に必死になる。しかし、行政には大きく分けて、①やらなくてはいけないこと、②やったほうがいいこと、③やらなくてもいいことの3つがあり、①②はやり方の内容を工夫する、③はやめるなど、行政改革をすることにより結果としてお金が産み出され、財政が良くなる。それらをやった上でどうしてもお金が産み出せないときには、サービスの低下を多少招いてもやらなければならないこともあるかもしれないが、順番では、行政改革で財政改革に繋がる。
  - ・県が400億円の一般財源を削減したときには「財政構造改革」と名づけ、中身を替えてサービスの低下を極力避けることをやった。一番効果がでる人件費も、給与カットではなく、組織や人事配置を工夫し、行政改革をすることで結果として財政が改革された。
  - ・上下水道施設の維持管理については、財政として管理費は下げたいが料金は上げたくないという中で、ここをこうすればこう良くなるのではないかなど、一定の仮説を立てて検討していくべき。
  - ・上下水道のコストの問題は、根本的な考え方の部分をしっかりと整理しておく必要がある。
  - ・インフラの整備コスト、水道管が壊れた時のリスク対応のコストも含めて、市としてどういう送水システムを作ると最もコスト削減でき、リスク対応できるのかという大枠の部分を持って、プランを出したほうがいい。送水管のシステム図や下水道システム図から検討することも考えたほうがいいのか。そういうことを専門にしている業者もあるはずなので、プロの目を通して、将来的に50年くらいのスパンで考えた時に、市の行財政コストを最も引き下げようシステムはどう設計すればいいのかという基本的なビジョン、トータルな計画、方針が必要。
  - ・分散型か集中型かなど、0からものを考え調査研究するのではなく、担当する人が、経験値などから方向性、ビジョンを持って仮説を立てて、検証していくことが必要。そこにもっていくにはどうしたらいいかを検討していくべき。
  - ・国などでも研究が進んでいるはずなので、専門家からもっと情報を収集するべき。

- ・環境センターの話は、ごみの問題が環境問題として重大な問題となっているので、民間委託してコストを下げるという方向性もひとつとしてあるかもしれないが、ゴミを出さない、ゴミを全部資源化していくなど、ゴミをどうするのかという方向性もあっていいのではないかな。
- ・ビジョンを持ってこの問題を解決するべきで、コストの問題だけではない。ゴミを処理するだけでなく、利用する、資源化することも考えていくべき。また、焼却熱を野菜栽培に利用している自治体もあるので、こういう仮説を立ててやらないといいことにならない。
- ・地域包括支援センターの問題では、今後大幅に増加する人数を見込んだキャパの問題を踏まえた仮説、ビジョン、方針が必要。地域が活性化されることが大事。
- ・先日、赤磐市で「百歳体操」のふれあい大会を開催し、市内の「百歳体操」参加者 1000 人のうち 640 人を超える人が集まって大成功した。赤磐市役所の包括支援センターが中心になって行ったもので、世話役の人が参加者に声をかけて連れて来てくれ、介護支援ボランティアの 34 人も単に体操を教えるということではなく「皆を元気にしてあげたい」という気持ちで活力を結集して動けた。「百歳体操」は、単に自分自身の健康増進目的に留まらず、皆が皆に目を向けて優しい言葉を交し合ったりすることで地域が活性化し、皆が繋がって元気になるパワーが素晴らしい、これで赤磐市は元気になっていくと実感できた。この大会は、包括支援センターの業務を社協に委託している他市のまねをして開催したが、赤磐市でもボランティアの皆が研修したり元気をもらったりして力を合わせてこれだけのことができたので、このまま社会福祉協議会に委託してもみんなが繋がっていく、大丈夫と実感できた。
- ・センター運営には専門的な資格者が 3 人ずつ 9 人必要という説明であったが、元気なお年寄りを雇用していくとか、資格を持った有償ボランティアを活用していくことはできないのか。
- ・お金は使わなくてもサービスは同じということは出来ないのか。9 人を社会福祉協議会に委託しても費用はあまりかわらないので、そういう工夫は出来ないのか。
- ・資格を持った専門の人がしないといけない業務もあると思うが、それを側面で支えるボランティアという体制も、地域に貢献するという価値観が多様化している地域社会の中でのシステム作りとして大事なこと。
- ・ボランティアは「ボランティアだからいい」ところもある。有償だと「しなければならない」と思うようになり、皆で楽しく繋がるということが難しくなると思う。
- ・ボランティアは基本無償でいいと思うが、多少責任がかかるとか、ボランティアの中のリーダーとか別の重大な仕事がある場合などは、柔軟に考えて、ポイント制を取り入れている所もあるので、有償も視野に入れて検討すればいい。
- ・給食センターについては、1 食当たりいくら経費が掛かっているか、人件費だけでなく、きちんと全体で出さないとどこが削れるかわからない。人件費 1 食 10 円程度の差では意味がない。
- ・サービス向上できるか、効率化できるか、コスト削減できて給食費を安くできるかなど、総合

的に検討するべき。もっと先進的にしている所を研究して、一番効率的なところ、コストダウンできるやり方はどういうものか検討するべき。

- ・センターを建替える費用なども含めて考えて説明するべき。民間なら当然含めている。
- ・建物は民間でも良いのか、給食に関する法律的にどこまでのことができ、どこからだめなのか。
- ・何ができて何ができないのか。示していただけると、合理的に議論が進む。
- ・食材調達については地産地消を推進するために直営で行うという説明だったが、委託するとき、米を何回にするなど指示書を出してきっちりしておけば出来る。
- ・国のガイドラインにある「直営」でも、直接的な直営と間接的な直営があり、責任は市が持ち、調達は民間業者が代行するという直営ではだめなのか。岡山市でも第3者組織を作って給食会が行っている。
- ・規則が許せば、大手であれば、献立を立てる資格を持っている人もいるかもしれない。
- ・3ヶ所で献立を立てる人が3人いるのか。3ヶ所同じ献立で、1人でいいのでは。もっと言えば岡山市と同じでもいいのでは。記念の日だけは別にするなどでよいのでは。
- ・中央図書館については、民間委託ありきということではないが、なぜ直営がいいのか、検討した結果どういう理由があったのかという答えになっていない。司書の人数も検討するとよいと思うが、民間に委託したら利用率がトップでなくなるとは限らないので、もっと効率的な方法がないか継続して検討するべき。
- ・貸出冊数に対して、どういう数値に基づいて適切な人員配置と言えるのか。全国平均と比較するとどうなのかなどの説明が必要。貸出40万冊に対してと説明されたが、コンピューターが導入されて司書の役割は大きく変わってきているのに、図書館司書の制度は昔のまま時代に対応していない。給食センターの問題も同じだが、ちゃんとしたデータ数字を持って議論しないと感情論では片付かない。
- ・どこの図書館も蔵書スペースで苦勞している。今後、蔵書冊数が増えてきたときにどうするか考えておかないと、建設コストの話になり兼ねないので、そういうことも含めて、将来的な合理的な運営について考えておいた方がいい。

会長：素案が抽象的な表現なので、もっと、具体的な議論を集約して、次回提言書をまとめたい。

## 5 その他

委員：今まで議題となった、市民バス・給食センター・定員管理計画の経過報告について、大きな問題なので時間があるときにその他で報告して欲しい。

特にバスの状況については代替施策もあるはずで、金額が大きいので検討するべき。

事務局：今回は、平成31年2月20日（水）13時半から、場所は山陽産業会館2階 ふるさと交流室。

## 6 閉会 会長挨拶